

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23520583

研究課題名(和文) 英語メタファーのネットワークの研究

研究課題名(英文) A Study on the Network of Metaphorical Expressions in English

研究代表者

渡辺 秀樹 (WATANABE, Hideki)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：30191787

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：動物寓意詩6編を本文校訂翻訳、認知詩学的論考を行って動物名メタファーの対義・類義の構造が虫類・鳥類・魚類・獣類・大科内に並行して存在することを証明した。
古英詩からMiltonまでに見られる動物名・身体部位名直喩隠喩表現を収集分析し、Beowulfでは「手」の類語が人と行為の比喩として顕著であり、The Merchant of VeniceでShylockの表象が雑種犬から狼に変容し、Paradise Lostでは一連の動物がサタンの感情変化の表象となっていることを和文英文論文で示した。

研究成果の概要(英文)：In this collaborated research of figurative expressions in English, animal terms and body terms when they are used figuratively to denote personal types, characters or their behaviors have been collected and classified. Many and various examples from verse works from Old English through the 17th century and the series of animal fable poems in the 19th century, demonstrate the structural aspect of metaphor: synonymous, antonymous and hierarchical relationships among the literal meanings of the words are preserved in their metaphorical meanings. The results testify that parallel structures or corresponding patterns of synonymous groups and anonymous pairs in their metaphorical uses exist among the names of bugs and insects, birds, beasts and marine life.

We have published 19 articles on metaphorical uses of animal or body terms used in Beowulf, Shakespeare, Paradise Lost, to name a few, and translated six animal fable poems, which will be gathered together and revised for publication.

研究分野：歴史言語学

キーワード：メタファー 動物名 身体部位名 直喩 ネットワーク 構造的性 Beowulf Milton

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、前回の科学研究費補助金(2007～2010)による一連の研究論文で、英語動物名(animal terms)と身体部位名(body terms)の比喩義の構造的な仮説を提出した。動物名は、その動物に関連する動詞や形容詞とともに、上位対下位(捕食者対獲物)、類義の二つの系列で比喩義を発達させており、哺乳類、鳥類、魚介類、虫のグループ内で並行する比喩義の構造の存在が予想されること、身体部位名はheadを上位にheartやhandが下位、または対立項となり、eye, ear, mouth, tongue, noseなどが五感と具体的な行為を意味する換喩として比喩用法のネットワークを持っているという仮説である。

本研究は、この仮説を実際の文学作品をコーパスにして検証し、比喩義のネットワークを示すことを目的とした。前回の4年間の研究では19世紀の英国児童向け動物寓意詩に着目して、虫、鳥、哺乳類の群れが登場する4編の関連作品を本文校訂し、脚注と和訳を施した後にメタファーの論考を行ったが、本研究はそれを続行し、海の生き物と犬の群れが登場する作品を研究対象とする。

前回の科研費補助研究での副次的成果にはメタファーに関する英語研究書の翻訳書出版があった。これはメタファー研究の方法論を学び、コーパスから用例を効果的に抽出するために*Metaphor and Corpus Linguistics*という専門書を研究代表者が主催するOED研究会において分担者、協力者2名と共に精読研究を続けた結果、出版に至ったものである。今回の研究においても、英語の種々のコーパスを用いてメタファーや定型句を研究する方法を論じた英語研究書を選び、研究の一環として精読を行って、研究期間終了時に翻訳を完了、出版することを目指す。

2. 研究の目的

本研究はこの動物名メタファーと身体部位メタファーの構造的な仮説を、実際の各時代の英語文学作品をコーパスにして検証することである。主たる分析対象は研究代表者の専門である古英詩*Beowulf*と他の英雄叙事詩・宗教詩に見られる身体部位名称と「戦いの獣」raven, eagle, wolf、中英語の動物寓意詩中の動物名、そして研究分担者との共同研究対象にはShakespeareの戯曲と詩に現れる動物メタファー、19世紀初頭の英国児童向け動物寓意詩2編を選ぶ。分担者は英語叙事詩の動物メタファーの研究対象としてShakespeareに続く時代(17世紀)の大詩人John Milton, *Paradise Lost*におけるサタンの変容と心境の関係を動物表象から論考する。このような時代とジャンルの作品群を考察することで、古英語から19世紀までの英語、特に英詩に見られる動物メタファーの構造的・伝承系譜・変化を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究では、研究代表者の専門である英語歴史文献学の知識を生かし、各時代の英語辞書、*Beowulf*, Chaucer, Shakespeare, Miltonなど有名詩人・作品の種々の校訂版を収集・精読して、動物名の象徴性、メタファー用法、直喩表現についての言及や学説を参照する。分担者は、その専門分野である認知言語学の知識、特に最近発展しつつある認知詩学の方法論を英詩テキストの分析、メタファー論考に援用する。

研究の手順としては、代表者は専門の古英詩*Beowulf*の身体部位名と動物名についての論考、及びShakespeareの戯曲に見られる犬のメタファーの論考を行い、同時に19世紀初頭に英国で連続して出版された動物寓意詩のうち、海の生き物と犬が集団で登場する2作品の英語本文と日本語訳を準備する。これについては研究期間中に英国図書館に2度出張して、稀覯本の英語本文を転写、帰国後にその本文を校訂し、動物名を中心に脚注を付けながら日本語訳を施して、共同研究用のテキストを編纂する。それをういて分担者は動物名の比喩用法を構造的な観点から認知メタファー論の手法を用いて論評する。分担者はまた、Milton, *Paradise Lost*のサタンの変容の過程を動物表象を通して分析する。

4. 研究成果

研究代表者の古英詩*Beowulf*の身体部位名メタファー研究については、2012年に国際学会SHELL 2012において英語で発表後、2013年に改訂英文論文をPeter Lang社から出版された英語史研究論文集に掲載した。この発表内容が認められて国際英語正教授連盟(IAUPE)の会員に推薦され、2014年より会員、2016年7月の連合王国King's College, University of Londonでの大会で発表を行うことになった。大会に先行する中世英語シンポジウムにおいても*Beowulf*のメタファーについて発表予定である。また*Beowulf*研究の成果が認められて、日本中世英語英文学会の評議員に2016年に再選された。

文学作品テキストを用いた動物メタファー研究の成果としては、19世紀初頭英国で出版の*The Feast of Fishes*と*The Council of Dogs*を本文校訂して日本語に訳し、その英語・日本語本文を基に認知メタファー論からの比喩義の分析を実施した。前回の科研費研究で行った虫、鳥、哺乳類が登場する寓意詩4点に続き、今回、魚介類と犬科内での比喩義の構造的な証明されたことにより、動物名メタファーの構造的な仮説は実際の作品で検証されたと言える。これらの寓意詩は英語本文、日本語訳、メタファー論考をまとめて改訂を施し、1冊の研究書として今後の出版を目指す。

分担者は、本研究期間に執筆した和文・英文論文をまとめ、大阪大学大学院文学研究科に博士学位申請論文を提出し、博士(文学)学位を取得した。その博士論文を改訂した研

究書 *Metaphor of Emotions in English: With Special Reference to the Natural World and the Animal Kingdom as Their Source Domains* をひつじ書房から刊行した。

分担者はまた、近年学界で注目を集め出した認知詩学の研究を進め、Milton, *Paradise Lost* のサタンの変容をテーマに、阪大英文学会第 46 回大会におけるシンポジウムで招聘講師として発表し、この内容が反響を呼んで、朝倉書店から 2017 年に刊行される『認知言語学大事典』の「認知詩学」の項目の執筆を依頼されて、その原稿を提出した。

副次的な成果としては当初の計画通り、本研究課題の研究手法に多大な示唆を与えた Hans Lindquist, *Corpus Linguistics and Descriptions of English* というコーパス言語学の学術書を、研究代表者を中心とする OED 研究会の 4 名のメンバーで輪読・翻訳し、大修館書店より『英語コーパスを活用した言語研究』と題する翻訳書を刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 19 件)

渡辺秀樹「シェイクスピアにおける賞賛と罵倒のレトリック動物名人間比喻用法の対義・類義の構造」『文化とレトリック認識 言語文化共同研究プロジェクト 2010』大阪大学言語文化研究科、査読無、2011、1-20.

渡辺秀樹・大森文子「19 世紀英国児童向け動物寓意詩の翻訳とメタファー論考 *The Feast of the Fishes or The Whale's Invitation to his Brethren of the Deep.*」『トポスのレトリック—場所・定型表現・認知 言語文化共同研究プロジェクト 2011』大阪大学言語文化研究科、査読無、2012、9-58.

大森文子「讚美のメタファーの形式と意味：Shakespeare の *Sonnets* における太陽のメタファーをめぐる」『意味と形式のはざま』大庭幸男、岡田禎之編、英宝社、査読無、2011、281-294.

大森文子「墮天使の変容と感情：Paradise Lost におけるメタファーの構造的なめぐり」『文化とレトリック認識 言語文化共同研究プロジェクト 2010』大阪大学言語文化研究科、査読無、2011、21-34.

大森文子「動物界の王者とトポス：英語動物名の比喻義の構造 共同研究 英語動物名のメタファー(12)」『トポスのレトリック—場所・定型表現・認知 言語文化共同研究プロジェクト 2011』大阪大学言語文化研究科、査読無、2012、59-70.

Ayako Omori “Conventional Metaphors for Antonymous Emotion Concepts,” *Dynamism in Emotion Concepts* (Łódź Studies in Language 27), ed. by Paul Wilson, Peter Lang, 査読有、2012、183-204.

大森文子「馬の象徴的意味と比喻：共同研究 英語動物名のメタファー(15)」『レトリックの伝統と伝搬 言語文化共同研究プロジェクト 2012』大阪大学言語文化研究科、査読無、2013、19-28.

Hideki Watanabe “*Folm, hand and mund in Beowulf* Reconsidered: symbolism and Synecdoche for the hands in Heorot” *Phases of the History of English*. Oxford: Peter Lang 査読有、2013、229-240.

Hideki Watanabe “Review of Seamus Heaney's *Beowulf: A New Translation*.” In *Beowulf at Kalamazoo: Essays on Translation and Performance*, ed. by Jana K. Schulman and Paul E. Szarmach. Western Michigan University, 査読有、2013、379-385.

渡辺秀樹・大森文子「19 世紀英国動物寓意詩 *The Jackdaw at Home* 全訳・注釈・メタファー論考」『テキストのレトリック 文化のレトリック—修辞・思想・翻訳 言語文化共同研究プロジェクト 2013』大阪大学言語文化研究科、査読無、2014、1-30.

大森文子「Milton の叙事詩的比喻とメタファー認識」『言葉のしんそう(深層・真相)：大庭幸男教授退職記念論文集』岡田禎之編、英宝社、査読無、2015、385-397.

大森文子「認知詩学とスキーマ」『レトリックと英語の語彙 言語文化共同研究プロジェクト 2014』大阪大学言語文化研究科、査読無、2015、15-22.

大森文子「メタファーのデザイン」『英語のデザインを読む』沖田知子、米本弘一編、英宝社、査読無、2015、106-118.

大森文子「間テキスト性への感性を磨く：尾形侑 『座の文学：連衆心と俳諧の成立』講談社学術文庫、1997. 380pp.」(書評論文) 『英文学研究 支部統合号』7 巻、査読無、2015、211-214.

渡辺秀樹「赤野一郎、堀正広、投野由紀夫編 『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館 2014 年 242 ページ」(書評論文) 『英文学研究』92 巻、依頼執筆、2015、190-94.

渡辺秀樹「19 世紀英国動物寓意詩 THE

COUNCIL OF DOGS. (1808) 本文校訂・脚注・日本語訳』『越境するレトリック — 意味・認識・間テクスト性 言語文化共同研究プロジェクト 2015』大阪大学言語文化研究科 2016、1-18.

大森文子「犬の寓意詩 The Council of Dogs における擬人化と寓意のメタファー」『越境するレトリック — 意味・認識・間テクスト性 言語文化共同研究プロジェクト 2015』大阪大学言語文化研究科 2016、19-34.

大森文子「認知詩学」『認知詩学大事典』朝倉書店。(印刷中) 依頼執筆

Hideki Watanabe, Review article: “J. R. R. Tolkien, *Beowulf*: a translation and commentary together with Sellic Spell. Edited by Christopher Tolkien.” *Studies in Medieval English Language and Literature* 31, In printing. 査読有

〔学会発表〕(計 6 件)

大森文子「感情の慣習メタファーと写像の特性」関西言語学会第 36 回大会、2011 年 6 月 12 日、大阪府立大学(大阪府堺市)。(招聘発表)

大森文子「コーパスを用いたメタファー研究の方法と可能性」日本英文学会関西支部第 6 回大会シンポジウム『認知メタファー理論は Deignan の批判にどのように応えるのか：言語と認知の乖離を超えるコーパス・メタファー研究の展望』(司会・講師：鍋島弘治朗、講師：谷口一美、大森文子、大石亨) 2011 年 12 月 18 日、関西大学(大阪府吹田市)。

Hideki Watanabe “*Folm, hand and mund in Beowulf* Reconsidered: symbolism and Synecdoche for the hands in Heorot” SHELL 2012、2012 年 9 月 2 日、慶應義塾大学三田校舎(東京都港区)。

大森文子「墮天使の変容とメタファー思考: *Paradise Lost* における叙事詩的比喻をめぐって」阪大英文学会第 45 回大会、2012 年 10 月 20 日、大阪大学(大阪府豊中市)。

大森文子「太陽の詩的意味とメタファーのデザイン」第 46 回阪大英文学会シンポジウム『英語のデザインを読む』(司会：米本弘一、講師：家木康宏、大森文子、馬淵恵里) 2013 年 10 月 19 日、大阪大学(大阪府豊中市)。

渡辺秀樹「J. R. R. Tolkien の散文現代英語訳 *Beowulf* (2014) の文体論考」日本中世英語英文学会東支部第 31 回研究発表会、2015

年 6 月 27 日、東北公益文科大学(山形県酒田市)。

〔図書〕(計 3 件)

渡辺秀樹、ひつじ書房「英語史とコロケーション」堀正広編『これからのコロケーション研究』2011、第 5 章、153-192.

Ayako Omori、ひつじ書房、*Metaphor of Emotions in English: With Special Reference to the Natural World and the Animal Kingdom as Their Source Domains*, 2015, 218 ページ.

渡辺秀樹・大森文子・加野まきみ・小塚良孝訳、大修館書店『英語コーパスを活用した言語研究』2016、242 ページ.

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡辺 秀樹 (WATANABE Hideki)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：30191787

(2) 研究分担者

大森 文子 (OMORI Ayako)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：70213866

(3) 連携研究者

()

研究者番号：